

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： AI 技術を用いた法的文書作成支援
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

角田 篤泰（中央大学国際情報学部 教授）

3. 事後評価結果

○評点：

B 成果がやや不足している

○総合評価コメント：

法律分野への AI 適用は新規性のある研究が期待できる分野であり，これまで類のない条令テンプレート自動作成技術，それに加えて法令検証や執筆教育の支援機能を開発し，実利用可能なシステム構築に挑戦したことは高く評価したい。

当初予定していた達成目標のうち，法的文書のテンプレート作成とそれを用いた文書作成支援システムのプロトタイプがほぼ完成した。一方で自動検証システムや執筆訓練システムの開発には完成までの余地を残した。条例の自動作成という法務 AI 実現のために，既存技術の集積でできるものは作り，実際のシステム構成に注力するという姿勢は素晴らしい。一方で，近年の自然言語処理の進歩はめざましく，多くの民間企業が法務 AI に参入している中で，ベストプラクティスの組み合わせという点についてはサーベイが必要であった。これまで蓄積された条例データと本研究グループの知見は法務文書処理の研究では優位と思われる。さらなる「説明文の自動生成」「上位概念化」に挑戦し，他の研究機関，企業，自治体との連携を含めて研究が進展することを期待したい。